（参考資料）
いいだ人形劇フェスタ
出典: フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』

いいだ人形劇フェスタ（いいだにんぎょうげきフェスタ）は、長野県飯田市で通常8月の第1木曜日から日曜日までの4日間にわたり開催される国内最大級の人形劇イベント。1979年に人形劇カーニバルとして第1回が開催されて以来、2019年で通算41回を数える。

飯田は、京と江戸の真ん中に位置することから、西日本と東日本の両様の文化が流れ込む山間部交通の要衝だった。この地域に人形浄瑠璃が伝わったのは江戸時代初期の正保4年（1647年）で、名古屋から来た一座が興行を行い好評を博した（『熊谷家伝記』）。江戸時代中期になると京都や大坂を中心とする上方で隆盛を極めていた人形浄瑠璃は、野郎歌舞伎の台頭により勢いを失いつつあった。結果、浄瑠璃の人形遣い達は活躍の舞台を日本各地に求め、諸国に旅立った。

天明年間には人形芝居興行の免状を持つ、淡路出身の吉田重三郎が下黒田村（飯田市上郷）に来住し、人形芝居を教えた。文化5年（1808年）には同じく淡路出身の森川千賀蔵が河野村（下伊那郡豊丘村）の村人に『道薫坊伝記』を譲渡し、天保3年（1832年）には大坂出身の桐竹門三郎が下黒田村（飯田市上郷）に来住した。伊那谷での人形浄瑠璃は庶民から熱狂的に受け入れられ、村人は浄瑠璃の舞台や人形の為に田畑さえ売り払う者まで出現した。天保の改革では人形浄瑠璃の上演が禁止される一方で、一時的に江戸所払いとなった七代目市川團十郎が飯田出身の13代目後藤庄三郎の興行手配により天保10年（1839年）8月に川路村（飯田市川路）で10日間、歌舞伎の旅公演を行っている（『遊行やまざる』）。明治以降は集会条例等による思想警察の監視など、苦難の時代が続いたものの、300年のあいだ黒田人形、今田人形（飯田市）、早稲田人形（下伊那郡阿南町）、古田人形（上伊那郡箕輪町）の四座が伊那谷の人形芝居の歴史を今に伝えている。

そんな伝統人形浄瑠璃や伝統芸能の宝庫と呼ばれる飯田市で国際児童年の1979年、全国の人形劇人が集まって人形劇カーニバル飯田が始まった。以後1998年に20回を数えたが、20回目のカーニバルを持って飯田市主催での人形劇イベントは終了することとなった。この時、市民にこれまでのカーニバルの意義を再確認すると同時に、これからもこのような祭典を続けていきたいという動きが起こり、人形劇のまつり「いいだ人形劇フェスタ」の第1回が開催されるに至った。

特徴
国内はもとより、海外からもプロ劇団やアマチュア劇団、学生劇団、そして地元の高陵中学校の黒田人形部などが参加し、現代人形劇や伝統人形芝居など、幅広いジャンルの人形劇が一堂に会

する。劇人・劇団の中にはこのフェスタの公演のために特別な演目・アレンジを行う劇団も少なくない。また、当フェスタは全国の劇人・劇団の貴重な交流の場ともなっており、それをきっかけに複数の劇人・劇団によるスペシャルコラボレーションユニットが組まれることもある。

大人向けの演出が楽しい「ミッドナイトシアター」、飯田市市街地を練り歩く「人形劇パレード」、人形劇の基礎を学ぶワークショップなどの企画もある。また、開催期間には飯田りんごんが併催（原則としてフェスタ最終日の前日、土曜日）され、その場での人形劇の披露もある。

会場として指定を受けている施設は文化会館・公民館をはじめとして小・中学校や幼稚園・保育園等、飯田市内・下伊那郡内の 120 ヶ所に及び、会場として使用される。

以上